

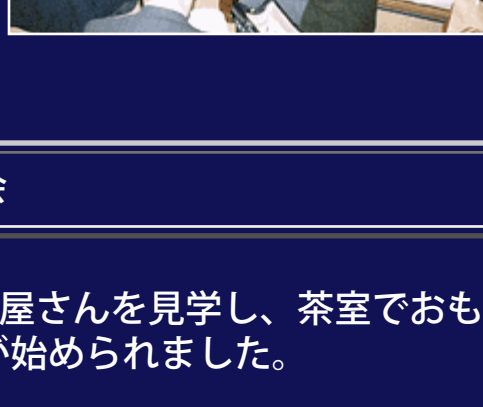
○KVBC REPORT  
KVBC特別プロジェクト・エコビジネス研究会  
○SAY IT

## KVBC REPORT

KVBC特別プロジェクト・エコビジネス研究会

### 第23回研究会 2周年記念拡大京都フォーラム 「Sustainable Building」

平成9年1月の結成から2周年を迎えたエコビジネス研究会では1月23日（土）、西陣界隈に残る商家や造り酒屋を舞台にした拡大フォーラムを開催。21世紀の地域社会の動きや平安京造営時の都市戦略などを踏まえた上で、エコビジネスの裾野を広げるためのイベントの開催についての提案が出され、熱心な議論が交わされました。

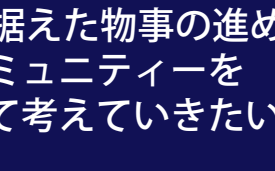


#### 第1部 研究会

築150年を超える西陣の商家、(株) 富田屋さんを見学し、茶室でおもてなしを受けて一息ついたところで研究会が始まりました。

##### ●高木治夫代表のあいさつ

エコビジネス研究会では2年間にわたって環境問題について勉強してきましたが、3年目はそろそろ収益事業やプロジェクトを持ち、社会の中での仕事を大きくすることを検討していければと考えています。

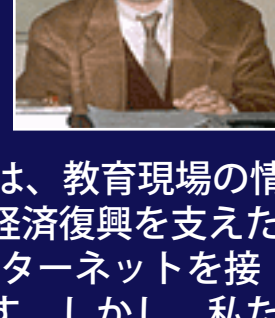


人口増加、高齢化、環境問題、デジタル情報化などによって21世紀の社会は20世紀とは大きく違ったものになると予想されます。そこで、21世紀を見据えた物事の進め方、考え方、つくり方としてサステナブル・コミュニティをテーマに設け、ビジネスやワークスタイルについて考えていきたいと思っています。

##### ●21世紀の経済と環境ーサステナブル・コミュニティが時代を創造するー

インフォーム株式会社 代表取締役  
はりまインターネット研究会 事務局長 和崎宏氏

阪神・淡路大震災でのボランティアを契機に、インターネットを社会基盤として普及させたいと考えようになり、姫路周辺で初めてのプロバイダーであるインフォーム(株)を96年7月に設立。同年11月には、地域における情報インフラの活用を考えるために「はりまインターネット研究会」を結成しました。



20年先を見据えて地域のポテンシャルを高めるには、教育現場の情報化が極めて重要であり、米国シリコンバレーの経済復興を支えたスマートバレー公社(SVI)は、地域の学校にインターネットを接続する「ネットデイ」という事業を実施しています。しかし、私たちにとっては、まず産官学民のパートナーシップを実現し、地域における情報化に対する意識を高める必要があります。そこで、97年夏に開始したのが「はりまマルチメディアスクール」です。このイベントは、子どもたちが夏休みにデジタルカメラで撮影した作品を先生方がホームページにして県のサーバーから発信するというもので、後にはCD-ROMも作成しました。そして、私たちと先生方、また先生方同士の間情報化を軸としたつながりが形成されて、同年11月には姫路市を含む県内の6つの小学校でネットデイを実施することができました。

こうした一連の取り組みの中で、情報化における地域間や学校間の格差を感じるとともに、子どもたちの多くが環境問題に対して非常に強い関心を持っていることに気がきました。そして、豊かさというものを改めて考え直してみる必要があると感じました。ISEW(持続的経済厚生指標)という総合的な指標があるように、今後は経済一辺倒ではなく、社会に貢献した人が正当に評価されるように徳というものも指標に組み入れていくべきなのかもしれません。

千年紀◇ミレニアム◇の変わり目にあたる現在、情報分野においては今後さらなる大変革が予想されます。インターネットがより深く社会に浸透すれば、ただ効率化のためだけに情報ツールを使うのではなく、その中で動く情報の質が問題となってくるでしょう。そして、お互いのつながりを深めよう、地域コミュニティを重視しよう、みんなで考えていこう、という動きが大きくなっていく先に、持続継続性のある地域社会(サステナブル・コミュニティ)があり、「人」「もの」「金」と環境問題を含めた様々な「智慧」が回る社会づくりが目標とされるのではないのでしょうか。

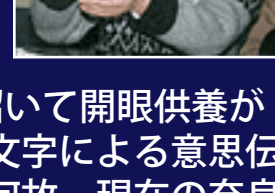
経済のバグタイムシフトにより、日本も世界も変わりつつあります。環境問題の解決のためには、人間そのものも経済一辺倒から地域社会重視へと変化するべきなのかもしれません。そして、新しい価値観による文明が浸透していく過程においては、古い価値観による文明と衝突せずにうまく融合できるようなゆるやかな流れが必要でしょう。

エコビジネスとは単にお金を儲けることではなく、周囲に“得”と“徳”を積んでいくことなのかもしれません。そんな意味で、経済◇エコノミー◇と環境◇エコロジー◇と地域◇コミュニティ◇が一緒になった“エコミューニティー”の社会づくりを考えていきたいと思っています。

##### ●1200年のサステナブル京都ーそれを実現した都市計画の水戦略を探るー

京都シルバーリング 代表幹事  
(社)京都ボランティア協会 常務理事 玉川雄司氏

京都は1200年にわたって日本の中心的な地位を占めてきましたが、奈良の平城京は74年で幕を閉じました。これは、どちらも計画に基づいた内陸都市でありながら、水に関する基盤整備に決定的な違いがあったことが大きな要因ではないかと考えています。



平城京ができて35年目には東大寺の大仏という世界に2つとない建造物が完成し、天竺からも人を招いて開眼供養が行われました。これらは、非常に優れた技術力や文字による意思伝達の文化があったことを示しています。それでは何故、現在の奈良には大寺院がたくさん残っているのに宮殿は残っていないのでしょうか。

大仏の建造時に若草山周辺は一大コンビナートと化し、そこに銅や水銀による重金属公害が起きたため、平城京はわが国で最初に産業公害の被害を受けた都市となったのではないかと私はみえています。しかも、廃棄経路となるのは佐保川1本だけでしたから、急激な人口の一極集中による生活用水と廃水能力の不足が起こったことは想像に難くありません。

こうして、廃都となった平城京の宮殿は解体して運び出され、水や輸送路に恵まれた長岡京の建設が始まりました。ところが、今度は建都の最中に2度にわたって大洪水に見舞われたために、秦氏の協力を得て京都盆地に遷都することになったのです。

平安京の造営にあたっては、堀川や鴨川を利用して木材を運べば非常に便利だったとみられます。また、右京と左京にそれぞれ5本ずつ一直線に流れる人工川がつけられていることから考えると、平安京は基盤の目につくられたのではなく、縦横に水を通すことから始められたのかもしれない。この緻密な水路基盤が地下水や生活水を豊かにし、京都は長らく“都”として機能することができたのではないのでしょうか。ところが、室町期における文化水準の向上に豊臣秀吉による大公共投資が加わって、これまでにない流通の集中化が起き、搬送のための都市機能が限界に達したのではないかと考えられます。そこで、江戸初期には高瀬川がつくられ、現代の高速道路に匹敵する物流経路として江戸期を支えました。また、明治期に入ると一時的に人口の減少があったものの、産業構造の変化に対応して琵琶湖疎水とそれを活用した水力発電によって活路を開きました。

このように、京都では時代の大きな転換期に水の利用基盤を整え、平安京から戦国末期までの800年、江戸期の300年、明治以降の100年を乗り越えてきました。1200年の節目にはあまり大きく取りあげられませんが、次の100年に向けた新しい水戦略は欠かすことのできないものだと思います。

#### 第2部 酒蔵見学と新酒の利き酒

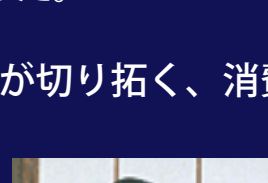
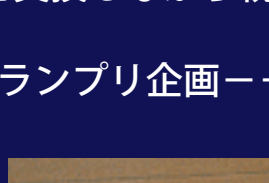
京都市中心街に残る数少ない造り酒屋である佐々木酒造(株)さんを訪ね、製造工程の説明を受けながら工場を見学。利き酒を楽しんだあとで、限定販売の新酒を予約注文するメンバーもいました。



#### 第3部 クリエイティブタイム

佐々木酒造(株)さんにほど近い松籙に場所を移し、研究会の今後の活動について意見を交換しながら親交が深められました。

##### ●「エコ1」グランプリ企画ーエコテイメントが切り拓く、消費者と産業の創造ー



株式会社ティエラ 監査役、ユーシンエンジニアリング株式会社  
地球緑化の会 会長 柳田耕一氏 代表取締役 廣見勉氏

小・中学生、高校生や一般の方々に対し、楽しく、面白く、有意義なイベントで環境保護意識の高揚を図ろうという目的で、水と川をテーマにしたラリー型の環境イベントについて提案が出されました。

これらは、エコビジネスの素地となって関連技術の開発に寄与するものでもあることから、夏頃の開催を目指して、具体的な内容の検討を進めていくことになりました。

## SAY IT

厄年に思うこと  
システムプロデュース(株) 中川茂之氏

先日、石清水八幡さんへ厄払いに行ってきました。後厄ですので今回が3回目の厄払いです。幸いにも本厄であった去年は大きな困難に遭うこともなく無事に過ぎました。といっても、私自身は厄年についてあまり深く考えずに、「男の42歳の厄は大厄でも必ず厄払いに行かなくてはならない」、そういう決まったものと受け止めていました。でも、厄年って何? …非常に単純な疑問がわいてきました。何か大きな災いが起こりやすい年というくらいの認識しかなかったので、さっそく調べてみるとこうありました。

『迷信だという人もあるが、医学的にも体の変調が起りやすい時期であり、社会的にも大きく環境が変わる時期とされている』

また、こうも書かれていました。

『男性、女性ともに転換期に当たる年。出産、成人病の入り口などの身体的変化も現れやすい年。また新しい仕事にチャレンジしたり、重要なポストについたりなどの社会的転換期にもあたる』

なるほど。この時期は成人病などが始めたり、仕事の環境やポストが変わる事によって身体的にも精神的にも何かと不安定になりやすいので注意をしなければいけない。そう言われれば思い当たる事がいくつかありますが、ただ注意をするといってもその結果、消極的になってしまうのは嫌ですね。では、どうするべきか。

すると、こんな言葉が目に入ってきました。

『自分の利益を優先するのではなく、他の人が喜んでくれるならば、それでよしとする1年』

去年の春からKVBCの幹事をさせていただいて、本当に貴重な体験をさせていただいています。そして皆さんのように、私も何らかの形でKVBCに貢献できたらと思っています。最後の厄年となる今年は決められた事をやるだけではなく、何かもっと前向きに動いていけたらと。